

2) 診断群分類別患者数(診療科別患者数 上位5位)【2017年度】

2017年度<2017年4月1日~2018年3月31日退院患者>

診療科名	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	全国平均在院日数	平均年齢	転院率
内科	040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2ーなし 副傷病なし	122	40.84	20.83	84.21	4.10%
	050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等1ーなし 手術・処置等2ーなし 副傷病なし	72	24.01	17.71	79.38	0.00%
	150010xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2ーなし	33	5.30	5.50	52.45	0.00%
	110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 副傷病なし	33	16.06	12.34	76.52	0.00%
	0400801499x001	肺炎等(市中肺炎かつ75歳以上) 手術なし 手術・処置等2ーなし 副傷病なし	31	30.10	13.51	85.03	0.00%

【解説】
 誤嚥性肺炎とは、高齢者や脳梗塞後遺症などで、嚥下(飲食物を飲み込む)機能が衰えている方に取りやすい肺炎です。昨年同様、誤嚥性肺炎が最多で、高齢者に多い症例の1つです。当院では経口摂取が可能となるようにリハビリテーションで嚥下訓練を行っています。
 上位ではありませんが、内科でも内視鏡を用いた胆管に対するEST(内視鏡的乳頭括約筋切開術)、大腸ポリープに対するポリープ切除術も多く行なっています。当院では血液疾患専門医が入職し、悪性リンパ腫や白血病などの疾患にも対応できるようになったため、今後症例数が増加すると考えられます。
 全国と比較して平均在院日数が長くなっている理由として、当院では急性期治療終了後、必要に応じ慢性期病棟へ転棟し、継続した治療とケアを実施しているためです。

診療科名	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	全国平均在院日数	平均年齢	転院率
外科	060102xx99xxxx	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患 手術なし	43	6.98	7.87	61.30	0.00%
	060035xx01000x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等	30	16.20	15.61	68.70	3.33%
	060150xx03xxxx	虫垂炎 虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの等	27	5.22	5.56	40.89	0.00%
	060150xx99xx0x	虫垂炎 手術なし 副傷病なし	20	6.05	7.01	51.55	5.00%
	110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術・処置等2ーなし 副傷病なし	17	2.47	8.50	71.65	0.00%

【解説】
 大腸癌に対して積極的に腹腔鏡補助下手術をおこなっており、切除後の絶食期間を短縮し、早期退院を目指すERAS(Enhanced Recovery After Surgery)プログラムを導入しています。
 虫垂炎に対しては症例によっては抗生剤による保存的治療を行い一旦退院した後、待機的に腹腔鏡手術をする症例が増えてきています。従来は開腹での虫垂切除が腹腔鏡で出来るようになり、より早い退院が望めるようになりました。腹腔鏡手術は、従来の開腹手術と比較して高度な技術が必要ですが、当科には2名の「日本内視鏡外科学会技術認定医」をはじめとして豊富な経験を有する常勤医が勤務しており、多様な術式に対応が可能です。
 DPCではカウントされませんが、腹腔鏡を使用した鼠径ヘルニア手術のための入院も行っております。
 慢性腎不全の症例が入っている理由としては、透析導入のための透析シャント設置手術目的の入院となっています。
 ほとんどの症例で全国平均在院日数より短いことがわかります。

診療科名	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	全国平均在院日数	平均年齢	転院率
整形外科	160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	98	65.57	27.09	84.28	3.06%
	160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰椎損傷を含む。) 手術なし 副傷病なし	89	61.04	19.94	82.61	2.25%
	160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 副傷病なし	35	8.74	5.21	64.31	0.00%
	160980xx99x0xx	骨盤損傷 手術なし 手術・処置等2ーなし	34	61.21	19.97	82.15	2.94%
	160835xx01xx0x	下腿足関節周辺骨折 骨折経皮的鋼線刺入固定術 前腕、下腿等 副傷病なし	19	48.53	22.27	45.32	0.00%

【解説】
 昨年度同様に股関節大腿近位骨折が最も多い症例となっています。高齢者に多い転倒による大腿骨の骨折や脊椎の圧迫骨折などが増加しています。当院の整形外科は大腿骨近位部骨折をはじめとして四肢の外傷、脊椎疾患、股・膝関節疾患、およびスポーツ外傷など、ほぼ整形外科全般の疾患に対応しています。
 当院では急性期治療から回復期リハビリテーションまでの一貫した治療を行っているため、全国平均と比較して在院日数が長くなっています。チームリハビリテーションを実践し、医師をはじめとしたリハビリテーションスタッフ、看護師、介護福祉士、ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士などがひとつのチームとなり、それぞれの専門性を生かしながら、患者さん一人一人に合ったリハビリを計画・サポートしていき、早期自宅退院を目指すことが出来ると考えています。

診療科名	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	全国平均在院日数	平均年齢	転院率
脳神経外科	010060x2990401	脳梗塞(脳卒中発症3日以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1ーなし 手術・処置等2ー4あり 副傷病なし	65	28.48	16.38	68.40	3.08%
	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	46	5.09	5.15	70.65	0.00%
	010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2ーなし 副傷病なし	31	20.55	6.32	70.19	0.00%
	160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2ーなし 副傷病なし	27	14.48	7.34	58.63	3.70%
	010060x2990400	脳梗塞(脳卒中発症3日以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1ーなし 手術・処置等2ー4あり 副傷病なし	27	36.22	20.20	78.41	3.70%

【解説】
 昨年度同様に、脳梗塞と前庭機能障害(めまい)が上位疾患となっています。
 てんかんは、脳の障害を原因とする「症候性てんかん」が多く、既往に脳梗塞や脳出血がある患者さんが突発的に痙攣発作を起こすことがあります。
 高齢者の転倒による硬膜下血腫も増加していて、患者さんの状態にもよりますが、血腫除去術も行っています。
 頭部外傷や脳卒中などは迅速な対応が求められることが多く、救急患者の受け入れも可能な限り行っております。タイミングが合えば、発症後の超急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法(tPA静注療法)を行うことも可能です。
 当院には回復期リハビリテーション病棟があり、発症からできるだけ早く充実したリハビリテーションを提供するために、365日休まないリハビリテーションを行っています。患者さん一人一人に合ったリハビリテーションを提供し、チームでカンファレンスを行い、日常生活に沿ったリハビリを計画・実施しながら在宅復帰を目指します。
 当院では急性期治療から回復期リハビリテーションまでの一貫した治療を行っているため、全国平均と比較して在院日数が長くなっています。